

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700085
法人名	社会福祉法人 三善会
事業所名	グループホーム春の風
所在地	大洲市長浜町甲570番地
自己評価作成日	平成28年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 1 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、スタッフの工夫を取り入れた(身体・認知)機能訓練を視野に入れた体操やレクリエーションを行っている。利用者の心身の状態を全スタッフが把握しており、柔軟に対応している。研修参加には法人をあげて積極的であり、スタッフの意志・向上心次第で、学べる環境が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目の事業所は住宅街の一角にあり、全国的にも有名な夕日の美しい地域にあり穏やかな美しい海を眺めることができ、消防署、商店街なども近く利便性にも富んでいる。事業所は木材をふんだんに使用し温かみのある造りで、地域交流室「ひだまり」は地域にも開放され、地域住民やボランティア等との交流を盛んに行っている。職員の年齢層も幅広いため、管理者は職員がストレスを感じないよう職場の雰囲気明るくし場を和ませており、職員から好印象を持たれている。職員は、家庭のように過ごしてもらえよう利用者へ寄り添い、声かけ等優しく丁寧にするよう努めている。法人全体での新人教育や研修、勉強会等職員の資質向上に向けたサポートや職員の安全面の意識を高めるため、防災訓練を隔月に実施するなど、緊急時の対策にも余念がない。また、24時間体制で協力医療機関や法人看護師の訪問等による連携もあり、利用者と家族は心強く安心している。利用者のその日、その時の一瞬一瞬を大切にケア、家族が心の安らぎを得られるようなケアが実践されており、今後ますます発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホーム春の風

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 徳森利弘

評価完了日 平成 28年 12月 28 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を共有できるよう、玄関の入り口の正面に掲示している。理念のポイントである「ぬくもり・喜び・笑顔」を、利用者様やご家族様はもちろんの事、関係機関の方々など外部の方にも感じて頂けるよう、日々接客・接待に努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時に「ここにはぬくもりがあり喜びがあり笑顔がある」と理念を掲げ、法人本部で新人研修、勉強会を受講し、基礎的知識を高めている。管理者と職員は理念について話し合い、同じ意識をもって実践に取り組んでいる。また、地域に根付いた事業所を目指し、来訪する人誰もがわかるよう、理念の解釈についても事業所内に掲示するなど、理解してもらうよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域との交流が充実出来るよう「地域交流スペース：ひだまり」を設けている。地域の方々のボランティアにより、歌や踊り、絵本、紙芝居などの発表の場となっている。又、保育所から高校などで行われる、運動会や文化祭などの行事に参加したり、中学生の職場体験、高校生のインターンシップによる来訪でも交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 地域住民が無料で自由に利用できる地域交流室「ひだまり」を設けており、近隣の高校生や保育園児等との交流をしたり、本の読み聞かせや紙芝居等の地域ボランティア活動が定期的開催され憩いの場となっている。地域交流を目的に開催される「春の風フェスタ」は、農産物の差し入れがあるなど、地域とのつながりができており、地元からも好評を得ている。管理者と職員は事業所が気軽に立ち寄れる場所となり、地元からも愛される存在となるよう日々努力を惜しんでいない。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 「地域交流スペース：ひだまり」を、地域ボランティアの発表の場や趣味披露の場に活用して頂いている。「春の風フェスタ」の際、地域の方々にも参加して頂き利用者との交流により、理解を深めて頂いている。又、四季報・ひだまり新聞の発行により、広く地域社会の方々に活動内容を知って頂けるよう努めている。玄関にもチラシを配置し、持ち帰って頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では現状や活動報告、及びヒヤリハット報告を行い、推進委員より貴重な意見を頂いている。又、意見を反映できるよう、取り組めることは、すぐ実践していける様に心掛けている。毎回、介護スタッフを入れ替え参加する事で会議内容の理解を広めている。	
			(外部評価) 利用者や家族、民生委員、市高齢福祉課担当者、その他関係職員等の参加協力を得て開催している。事業所報告だけでなく、地域の情報交換の場になるなど効果的な開催になっている。進行は職員が担当し、写真等を用い視覚的にも利用者の日々をわかりやすく伝えている。地域行事等の情報は会議だけでなく、日常生活の中で報告してもらえようになり、運営に盛り込むことでサービスにつなげている。特に災害対策に意識が高い地域であるため、意見交換が盛んに行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議において、市の職員より報告に対する質問や助言を頂いている。改善点などはすぐに実践できるよう心掛けている。又、月に2名の介護相談員の訪問もあり気づいた点など助言を頂いた時は実行するように心掛けている。	
			(外部評価) 市担当職員が運営推進会議に出席し、利用者の生活状況に実際に触れてもらい実情を伝えたり、具体的なアドバイスや注意事項等の情報ももらっている。市担当課が近くにあるため、日頃から不明な点や相談等があれば、気軽に連絡したり足を運べる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をせず、安全を確保するため、夜間を中心にセンサーや鈴などを設置し、利用者様の単独の動きに早く気付けるようにしている。帰宅願望や徘徊などがある時には見守り、付き添いを行い必要時には散歩や外出にて気分転換を図っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアが実践できている。法人全体の取組みとして研修の機会を設けており、正しい理解へとつなげている。転倒リスクの高い利用者が居室での静養時には移動式置き型センサーの活用を工夫するなど、安全面に配慮した支援に努めている。また、外出したい利用者にはその都度職員が寄り添う対応をしており、安全には万全を期している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修を通じて虐待に対する理解を深めていくよう努めている。言葉での圧力や態度など気づいた点は、職員同士で速やかに注意し予防に努めている。特に意志疎通のとれない利用者の身体に異変があれば、速やかに上司に報告して対策を立てる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護についての研修や学習する機会があれば参加し、学習に努めている。後見人制度の利用は現在1名。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に契約書、重要事項説明書など細部にわたって説明し理解、納得した上での契約としている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や施設見学会、家族会など面会時や電話連絡時にもご意見を伺っている。ご意見箱も玄関に設置してご意見などをいただく機会を設けている。対応できる事であればすぐに見直しをして改善に努めている(地域の代表者より災害時の避難場所の提案あり検討した)	
			(外部評価) 利用者の意見や要望は、日頃の生活の中で確認し職員全員で共有している。家族には利用者の日々の様子や法人の運営内容を定期的に新聞や冊子で伝えている。面会や電話連絡等の機会を有効に活用し、意見を出しやすい良好な関係作りに努めている。意見箱の設置や家族会で家族同士の交流を深めるなどし、貴重な意見が聞けるようにしている。食事介助時に使用するトロミ剤は必要なのかという疑問が出れば、家族にも食事を共にしてもらうことで必要性を理解してもらったこともあるなど、事実を理解し納得が得られるよう職員一丸となり課題に取り組む姿勢が窺える。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1度、夜勤以外の職員全員が集まり、ケアカンファレンスに引き続いて職員ミーティングを行い日頃の思いや意見、提案等、聞く機会を設けている。また朝夕の申し送り時などにも聞く機会を設けている。</p> <p>(外部評価) 職員は20代～60代まで幅広い年齢層で構成され、それぞれの経験を活かせるようその職員にしかできない良さに着目し、視野の広いケアに取り組んでいる。毎月のミーティングの他、日常の業務の中でその都度課題について話し合い、自主性を尊重したスキルアップに努め、管理者も含む職員全員が共に学んでいる。管理者は職員には優しさと思いやりをもって接しており、悩み事などは気軽に相談できる垣根のない温かみのある職場環境づくりに努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 目標管理シートにて各自の目標を提出してもらいアドバイスしながら目標達成や水準のアップに努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修参加の案内など回覧し希望者などへ声かけを行い参加を促している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 市のグループホーム連絡会や相互研修に参加し他施設を見学しあって交流し、訪問やボランティアを通じて、生活の質の向上に役立て、地域との情報交換を行っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 施設に入居される前に、ケアマネージャーとの連携を図り、本人の思い、要望を傾聴し不安な点などもアセスメント表に記入して安心できる関係づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントをし、ご家族が不安に思っている事や要望などを傾聴しながら信頼関係につなげている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の要望や希望をもとに、他業者と連携しサービスを提供している。(福祉用具など)	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 週に2、3回のくもん学習療法を現在4名の方が実施している。教材の中にある昔懐かしい物(道具、遊び)などの話を聞かせて頂いている。また、洗濯物干し、洗濯たたみ、手作業など出来る事を共同で手伝って頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の来所時には、日々の生活の様子や健康面等の状態を報告し、安心して頂けるよう努めている。又、体調不良時の状態報告や、病院受診の協力の要請を行っている。ヒヤリ・ハット発生時に随時状況を報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や友人など来所された際には、ゆっくり話しをして頂く雰囲気作りをし、職員は暖かく受け入れている。スタッフや家族の協力のもとお墓参りや以前の居住地域へ外出している。 (外部評価) 利用者の馴染みの人や場所の情報を職員間で共有し、利用者が大切にしていきたい思いを最大限に尊重した支援に努めている。家族や知人など面会者が多く、今後も引き続き訪問してもらえよう、馴染みの関係の継続や事業所をより訪問しやすい環境にするよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションを通し利用者間の交流を図っている。利用者同士のトラブルを、未然に防ぐために会話の好きな方、苦手な方との距離間の配慮に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方にはグループホームでの生活の状態をお伝えし、入院先やご家族様との連絡を密にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での本人の思いや希望等を把握し、ミーティングやカンファレンス時に話し合い、検討している。 (外部評価) 利用者の生活歴を把握し、何気ない日常の自然な会話の中の思いを大切にしている。認知症状の進行により、思いを伝えることが困難になっている利用者も多いが、しぐさや表情の一つから、本人が望むことが何であるか、家族の協力を得ながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族様からの情報や、ご本人様との日々の会話の中で今までの暮らしを捉え、馴染みのある生活環境に近づける様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 意思表示の困難な方には、日々の中での表情、動作等の変化を重視し、職員間の連携を図り対応を行っている。又、入居者の一日の生活状況を一覧表にしスタッフが随時書き入れる事により現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 個々にあった、残存機能を活かしたケアプランを作成している。立位訓練・歩行訓練・口腔体操等、ご本人様の意志により行っている。	
			(外部評価) 職員担当制を敷き、担当職員が中心になって介護計画書を立案している。日頃利用者や家族から収集した意見や要望を取り入れ、職員がアイデアを出し合っている。一目で見て利用者の一日の様子が把握できるオリジナルの様式を用い、根拠あるモニタリングへつなげている。経歴に関係なく職員誰もが利用者の状況が把握できるよう、管理者は職員のスキルアップに意欲的に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の健康チェック（血圧、脈、体温）や入浴時の身体チェックを行い、その日の体調の把握に努めている。又、本人の言葉等も記録している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 病院受診時に利用者のご家族が都合で付き添いや送迎ができない場合は介護タクシーの利用や施設の公用車を利用している。買い物や外出の希望がある場合は、その都度対応している。花見やドライブ等に行く際、法人内の他事業所の車を借りて出掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 気分転換の為、近くの海まで散歩し、地域との交流や会話を楽しんで頂いている。近隣の保育園児や高校生との交流を行っている。近くに消防署があり、避難訓練時には毎回来て頂いており、地域の方にも一緒に参加して頂いている。地域のボランティアの方が来所していただいたり、地域行事に利用者・職員が参加したりと交流を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診が必要な時、本人やご家族様と話し合いかかりつけ医や専門医に連 絡を取り、直ぐ受診できる様に支援している。2週間に1度、かかりつ け医の往診があり、採血や注射等定期的に行っている。 (外部評価) 利用者の多くが協力医療機関をかかりつけ医にしているが、家族の協力 や介護タクシー等の利用により入居前の医療機関の受診もでき、利用者 や家族が満足する医療が受けられるよう支援している。協力医とは24 時間の医療連携が取れており、また、看護師の訪問も毎週あるなど、利 用者の健康管理は万全である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週に1回訪問看護師に来て頂き、日常の変化や気付きを報告し話し合 い、健康管理や医療支援に繋げている。 また、個々の利用者が看護師に相談しやすい環境を作っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には医療機関と連携してスムーズに退院出来る様支援してい る。入院中も状態の報告をしていただいたり、入院先の病院へ伺い状態 を把握している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期については、早い段階で家族や主治医、専門医と話し合いを行 い、職員全員で情報を共有し適切な支援ができる様に取り組んでいる。 看取りについての勉強会も行い、職員全員が冷静に対応できるようにし ている。 (外部評価) 看取り介護ケア指針を整備し、最期を迎えるにあたっての考え方を定 め、事業所としてできることを家族等に説明している。利用者や家族が 希望する最期の迎え方等について詳細に記録にまとめており、それを基 に関係者と思いを共有し安心して看取り支援ができるよう努めている。	看取りケア終了時に、職員間で利用者や家族等の気持ち の変化等の振り返りの機会を持っており、介護を必 要とする人なら誰にでも参考になる内容であり評価で きるが、利用者の死を乗り越えられぬまま日々の業務 に就く職員もいるなど、職員の心のケアについては少 し不十分な感否めないで今後の取組みに期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応としてAEDの使い方や、胸骨圧迫の行い方を消防署の方に来て頂き、講習して頂いている。 また、研修にも参加し職員ミーティングにて研修報告を行い皆で共有できている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署との連携を図り定期的に避難訓練を実施している。日勤帯、夜間帯での想定をし近隣の方との協力も得て消防隊員より、指導を受けながら実践的に取り組みを行うことができている。 (外部評価) 地元消防署の協力を得て、2か月毎に昼夜間想定での防災訓練を実施している。緊急災害時に、近隣住民に利用者の見守りなどの役割を担ってもらうなど、地域の協力体制は整っている。事業所の立地する地域は海岸に近く、伊方原子力発電所より30km圏内にあり地域住民の安全に対する意識も高いため、運営推進会議でもあらゆる想定での災害対策について話し合われるなど、協力体制は強固である。	災害訓練を頻回に実施するなど防災意識は強く、開設時から地道に参加の呼びかけを続けた結果として、地域住民との協力体制が築けている。夜間等職員の少ない時間帯の不安の軽減、また地震や津波等災害時の対応については、職員それぞれ曖昧な把握に留まっている面もあるため、今一度利用者が安全に避難できる方法を職員全員で確認し訓練に望んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様ひとりひとりに寄り添い丁寧な言葉かけに努めている。利用者様の行動や振る舞いを観察しながら速やかに対応している。また、尊厳の気持ちを忘れずに対応に努めている。 (外部評価) 個人情報に関する書類等は正しく取り扱われ管理されている。ケアの中でも特に配慮が必要な入浴や排泄時の声かけには丁寧な対応を心がけており、利用者を尊重したケアに努めている。重度の利用者も多く、利用者の気持ちに寄り添い、自尊心を損ねないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の表情や日頃の接し方で意志表示の難しい方でも思いをくみ取れるよう努めている。また、自己決定しやすい雰囲気作りに心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせて無理のないよう利用者様の意向にそった支援が出来る様努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に散髪を行い、爪切り・耳掃除・髭剃り等身だしなみの支援を行っている。また、おしゃれをする事を忘れない様、同じ服ばかりを着ないような声かけの工夫をしながら、整理整頓に努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) アレルギーや食べられない食材がある場合は代替え食として、他のメニューを提供し残さず食べて頂けるよう支援している。また、BGMを流しながら楽しい雰囲気の中で食事できるよう心掛けている。準備や片づけは出来る利用者さんに手伝って頂いている。	
			(外部評価) 献立は法人栄養士が作成したものを参考に、事業所で検討し作成している。地域住民や家族の差し入れのほか、地域商店から食材を配達してもらうなどの付き合いがあり、利用者は地域との交流を楽しみにしている。専門調理員を配置し、時には利用者にごしらせ等できる事を手伝ってもらいながら食事の準備をしている。利用者の誕生日は赤飯でお祝いしたり、麺や丼物等のリクエストに応じるなど、食事により興味を持ち楽しんでもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々に応じた食事形態、介護皿の利用など食べやすい工夫を行っている。食事量や水分摂取量は毎日チェックを行い確認が出来ている。定期的に体重測定を行い、健康状態の把握に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人ひとりに口腔ケアの声掛けや誘導を行い口腔内の清潔保持ができています。清潔保持の為、介助にて仕上げ磨きを行う方もおられる。週に2回義歯洗浄剤を施行している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレで排泄していただけるよう尿意・便意の訴えのない利用者様には定期的に声かけやトイレ誘導を行っている。利用者様ひとりひとりの排泄パターンを理解し、個々に合った支援をしている。	
			(外部評価) トイレでの排泄を基本にし、利用者一人ひとりの排泄パターンに応じ、タイミング等を考慮し適切な支援に努めている。利用者の習慣や残存能力、機能回復に考慮した支援を実践し、できることを奪わないケアに取り組んでおり、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 事前に便が出るように腹部のマッサージや体操を行ったり、水分補給を行ったりしている。3日以上排便が確認できない場合は医師により、その人にあった薬を処方していただいている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者様は入浴を楽しみにされている方が多い。健康状態をみながらの入浴になり中止する事もあるが全身清拭などにて対応している。入浴時には全身の観察や体重測定を行い、体調管理に努めている。必要な方に応じて処方された軟膏を塗布している。	
			(外部評価) 2階には個別浴槽、1階には温泉気分が味わえる大きな浴室があり、利用者は好みに応じて入浴できる。入浴の苦手な利用者でも他の利用者が誘い合うなどし、お風呂に仲良く入り会話を楽しむこともある。広い脱衣場には浴室暖房機を備え室温差をカバーしたり、残存能力を活かした更衣ができるよう介助バーを配置するなど、配慮している。職員は声かけを工夫し、利用者の入浴したい気持ちを引き出し無理強いすることなく入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様のペースで、日中居室で休んで頂き過ごされている。夜間は、その日によって浅い眠りの方も居られるが、ほぼ全員の方が良眠されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者様の体調の変化に留意し、定期的に主治医と連絡を取りながら服薬調整を行っている。薬の変更時には連絡ノートに目的副作用等を記載し申し送りをして確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様にあった手伝いをお願いし、終わった後には感謝の気持ちを伝え意欲につながるように努めている。 利用者様の要望に合わせて散歩・外出・買い物の支援を行っている。地域交流スペースの季節行事やボランティアの方の訪問など取り入れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望がある時、天気の良い日に散歩や外出をし気分転換を図れるよう支援している。 ご家族との外出、外泊時には服装・荷物・薬の準備等の支援を行っている。 (外部評価) 利用者が気軽に外出できるよう日常的に近所への散歩で気分転換を図っている。会話の中で出かけたかった気持ちになったその一瞬を大切に、行きたい所へ行きたい時に出かけられるよう努めている。利用者の誕生日等の特別な記念日をチャンスと捉え、家族の協力を得て外出を楽しむこともある。地元の祭り等の行事では、事業所用にスペースを確保してくれる近所付き合いにも発展しており、外出先での楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に行かれた時には、買いたい物をご自分で選び、カゴに入れ、レジで自分の財布から代金を支払い、お釣りも受け取れるような支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 気兼ねなく家族に電話できる雰囲気作りをし希望に応じて家族に取り次ぎをしている。 手紙やハガキをポストに本人と一緒に投函している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共同生活空間は利用者様が清潔なところで安心して過ごせるように努めている。又、リビングには、月ごとに季節感のある壁画を展示している。</p> <p>(外部評価) 事業所の共用空間は天井が高く、大きな窓からは自然光が取り入れられ、木材をふんだんに使用した落ち着いたある明るい設えとなっている。共用部各所にエアコンが設置され、湿度や温度など空調管理を適切に行っている。ダイニングとリビングが一目で見渡せる共用空間の好みの場所で、利用者はテレビなどを見ながらゆったりくつろいでいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者様一人ひとりが不愉快な気持ちにならないように席を移動したり、職員が間に入ったりして楽しく生活できるように心掛けている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者様本人が家で使っていた物等を持って来てもらい使い慣れた物が部屋にあることで安心して過ごして頂けるように心掛けている。</p> <p>(外部評価) ベッドやエアコン、収納棚が備え付けられ、利用者が快適に過ごせるよう丁寧に掃除も行き届いている。仏壇や使い慣れた家具など好みの物を持ち込むことで、利用者が落ち着いた気分で、思い思いに居心地よく生活できるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者様にあった歩行・立位訓練、歩幅を保つ練習など体調を見ながら行っている。 トイレが済んだ時には、マラカス・鈴等を鳴らして頂き職員を呼んでいただくようにしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700085
法人名	社会福祉法人 三善会
事業所名	グループホーム春の風
所在地	大洲市長浜町甲570番地
自己評価作成日	平成28年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 1 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、スタッフの工夫を取り入れた(身体・認知)機能訓練を視野に入れた体操やレクリエーションを行っている。利用者の心身の状態を全スタッフが把握しており、柔軟に対応している。研修参加には法人をあげて積極的であり、スタッフの意志・向上心次第で、学べる環境が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目の事業所は住宅街の一角にあり、全国的にも有名な夕日の美しい地域にあり穏やかな美しい海を眺めることができ、消防署、商店街なども近く利便性にも富んでいる。事業所は木材をふんだんに使用し温かみのある造りで、地域交流室「ひだまり」は地域にも開放され、地域住民やボランティア等との交流を盛んに行っている。職員の年齢層も幅広いため、管理者は職員がストレスを感じないよう職場の雰囲気明るくし場を和ませており、職員から好印象を持たれている。職員は、家庭のように過ごしてもらえよう利用者に寄り添い、声かけ等優しく丁寧にするよう努めている。法人全体での新人教育や研修、勉強会等職員の資質向上に向けたサポートや職員の安全面の意識を高めるため、防災訓練を隔月に実施するなど、緊急時の対策にも余念がない。また、24時間体制で協力医療機関や法人看護師の訪問等による連携もあり、利用者と家族は心強く安心している。利用者のその日、その時の一瞬一瞬を大切にケア、家族が心の安らぎを得られるようなケアが実践されており、今後ますます発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名	春の風
(ユニット名)	2階ユニット
記入者(管理者)	
氏名	樋口めぐみ
評価完了日	平成 28 年 12 月 28 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「ここにはぬくもりがあり喜びがあり笑顔がある」の理念のもと、スタッフ一人一人が意思統一を図りながら支援している。今後も「春の風」の特徴でもある、地域交流スペース「ひだまり」を活用し、閉ざされたGHではなく、地域との交流・共生を図っていきたい。</p> <p>(外部評価) 開設時に「ここにはぬくもりがあり喜びがあり笑顔がある」と理念を掲げ、法人本部で新人研修、勉強会を受講し、基礎的知識を高めている。管理者と職員は理念について話し合い、同じ意識をもって実践に取り組んでいる。また、地域に根付いた事業所を目指し、来訪する人誰もがわかるよう、理念の解釈についても事業所内に掲示するなど、理解してもらうよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域交流スペース「ひだまり」にて、地域のボランティアによる演奏や読み聞かせ、保育園園児との交流等行った。また今年も「春の風フェスタ」を実施し、地域の方との交流を深める事ができた。地域の学校文化祭や運動会、催し物にも見学に行き地域の一人として交流させていただいている。</p> <p>(外部評価) 地域住民が無料で自由に利用できる地域交流室「ひだまり」を設けており、近隣の高校生や保育園児等との交流をしたり、本の読み聞かせや紙芝居等の地域ボランティア活動が定期的開催され憩いの場となっている。地域交流を目的に開催される「春の風フェスタ」は、農産物の差し入れがあるなど、地域とのつながりができており、地元からも好評を得ている。管理者と職員は事業所が気軽に立ち寄れる場所となり、地元からも愛される存在となるよう日々努力を惜しんでいない。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 中高生の福祉体験やインターンシップの受け入れを行い、認知症の方々との触れ合いの中から理解を深めて頂いている。また、今後は「家族会」の協力を得ながら認知症について理解して頂ける様に努めていきたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議にて、現状活動報告やヒヤリハットの報告をしている。地元ならではの貴重なご意見を頂き、日々の運営に役立てていけるようにしている。地域の祭りやイベント情報を参考にし、グループホームの外出機会を増やし、入居者様の楽しめる場に活用させて頂いている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族、民生委員、市高齢福祉課担当者、その他関係職員等の参加協力を得て開催している。事業所報告だけでなく、地域の情報交換の場になるなど効果的な開催になっている。進行は職員が担当し、写真等を用い視覚的にも利用者の日々をわかりやすく伝えている。地域行事等の情報は会議だけでなく、日常生活の中で報告してもらえようになり、運営に盛り込むことでサービスにつなげている。特に災害対策に意識が高い地域であるため、意見交換が盛んに行われている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して市職員との情報交換を行い、不明な点などを相談し、解決に協力して頂いている。入居者様の状況を報告し、客観的な助言を頂くなどサポートして頂いている。</p> <p>(外部評価) 市担当職員が運営推進会議に出席し、利用者の生活状況に実際に触れてもらい実情を伝えたり、具体的なアドバイスや注意事項等の情報をもらっている。市担当課が近くにあるため、日頃から不明な点や相談等があれば、気軽に連絡したり足を運べる関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束についての理解を深める為、定期的に身体拘束について勉強会を開いている。身体拘束や虐待などの新聞記事をスタッフで確認し、意識を新たに日々の介護ケアに取り組んでいる。今後もミーティングを行い、ケアについて話し合いを重ねていきたい。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアが実践できている。法人全体の取組みとして研修の機会を設けており、正しい理解へとつなげている。転倒リスクの高い利用者が居室での静養時には移動式置き型センサーの活用を工夫するなど、安全面に配慮した支援に努めている。また、外出したい利用者にはその都度職員が寄り添う対応をしており、安全には万全を期している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての研修(6月22日)参加。定期カンファレンスを毎月開催。研修報告をし、スタッフ同士が学び合うことで、意識付けを行っている。スタッフ同士がストレスをためこまないよう、困難な対応をしなければならぬ入居者様に対しては、交替しながら対応を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 1階ユニットの入居者様1名が成年後見制度利用中である。研修には事業所、法人をあげて積極的に参加しており、スタッフ同士でも定期カンファレンスを毎月開催する事で勉強し合える環境を作っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、管理者・計画作成担当者が同席し、不足がないよう、不安や疑問点が残らないよう説明している。制度上、変更のあった事は、書面でもお伝えし、面会時にも説明することで理解を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会、日々の面会時や日常生活の会話や様子から、入居者様・ご家族様の意見や要望が伺えるよう努め、スタッフへも周知している。玄関に意見箱を新たに設置した。 (外部評価) 利用者の意見や要望は、日頃の生活の中で確認し職員全員で共有している。家族には利用者の日々の様子や法人の運営内容を定期的に新聞や冊子で伝えている。面会や電話連絡等の機会を有効に活用し、意見を出しやすい良好な関係作りに努めている。意見箱の設置や家族会で家族同士の交流を深めるなどし、貴重な意見が聞けるようにしている。食事介助時に使用するトロミ剤は必要なのかという疑問が出れば、家族にも食事を共にしてもらうことで必要性を理解してもらったこともあるなど、事実を理解し納得が得られるよう職員一丸となり課題に取り組む姿勢が窺える。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 個別に面談する機会を設け、スタッフからの意見や提案を傾聴できる時間を大切にしている。全スタッフをまとめて一度に聞く事は難しいが、タイミングをみて少人数ずつ行うことで、個人のモチベーションをあげたり、やりがいをもてたり出来るようにと考えている。 (外部評価) 職員は20代～60代まで幅広い年齢層で構成され、それぞれの経験を活かせるようその職員にしかできない良さに着目し、視野の広いケアに取り組んでいる。毎月のミーティングの他、日常の業務の中でその都度課題について話し合い、自主性を尊重したスキルアップに努め、管理者も含む職員全員が共に学んでいる。管理者は職員には優しさと思いやりをもって接しており、悩み事などは気軽に相談できる垣根のない温かみのある職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人としては少し離れた場所に位置しているが、訪問していただいて状況を目で見て把握したり、日々の業務日誌や報告書等の書面にてGH春の風の状態・状況が把握でき努めて頂いている。不明な点は直接やり取りを行う事で整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) スタッフ1人1人の持ち味・得意な事を活かし、個々の役割を作っている。研修は個々が希望するものに、業務時間内に参加できるよう、勤務表の配慮に力を入れている。もう少し個々のレベルアップを図っていきたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県や市のグループホーム連絡会に加盟している。 施設見学・相互研修に参加している。 運営推進会議を1ヶ月ごとに訪問し合い、交流を深めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 穏やかに生活して頂けるように、ご本人の話を傾聴・受容・共感しながら、会話がしやすい雰囲気作りに努めている。信頼関係が築けるよう、会話の工夫や雰囲気作りを心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の不安や困っている事を都度、問いかけたり伺ったりし、要望を聞いて解決できるように話し合っている。入居時に出なかった要望等も、何気ない日常会話の中からさりげなく伺えるよう、一回一回の面会や電話連絡の機会を大切にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人とご家族の要望に対して、できる限りの支援を行っている。必要であれば、他業者と連携し（福祉用具等）サービスを提供している。入居前の事前調査を大切にし、ご本人・ご家族の状況を把握できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者様本人ができる事をスタッフ間で話し合い、入居者様の役割として行って頂いている。生活を共にする仲間としてのやりがい・役割を大切にサポートを大切に支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の面会時には、日々の様子を報告したり日常生活で撮った写真を活用する等して、リアルに状態や様子が分かる様に努めている。また、ご家族と相談しながら協力して頂ける事はお願いし、ご家族にも入居者様と一緒にサポートしていく意識を持っていただけるよう取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人の生活歴やご家族様からの情報から、大切にしてきた人間関係や場所をアセスメントし、支援に活かしている。気分転換も含め、内子に紅葉ドライブに行ったり、地域のお祭りや敬老会に参加する等のサポートを行っている。 (外部評価) 利用者の馴染みの人や場所の情報を職員間で共有し、利用者が大切にしていきたい思いを最大限に尊重した支援に努めている。家族や知人など面会者が多く、今後も引き続き訪問してもらえよう、馴染みの関係の継続や事業所をより訪問しやすい環境にするよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者様の性格を十分に理解した上で共同作業や個々の役割が達成できるようにし、入居者様同士の関係が保てるよう支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中や他施設入居された入居者様は、スタッフがお見舞いに行ったり面会に行ったりし、必要に応じて不安の軽減を図っている。また、サービス利用が終了となる入居者様が、新たな場所で安心して生活できるように情報の提供を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者様の心身の変化に素早く気付ける様に努め、記録に残している。毎日のミーティングで情報を周知したり、必要に応じて主治医やご家族にもお伝えする事で、入居者様に関わるスタッフが情報を交換したり共有したりしている。 (外部評価) 利用者の生活歴を把握し、何気ない日常の自然な会話の中の思いを大切にしている。認知症状の進行により、思いを伝えることが困難になっている利用者も多いが、しぐさや表情の一つから、本人が望むことが何であるか、家族の協力を得ながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族や入居者様の話から情報収集を行い、個人記録物にも必ず目を通し共有している。入居前の事前調査で行ったアセスメントも周知している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送り、スタッフ同士の情報交換の中で状態を把握しており一人一人に合わせた機能訓練を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者会議や月に一回カンファレンスを行い、アイデアを出しあってプランの見直し等、その方に合ったプランを作成している。また、入居者様の希望・ご家族の希望を踏まえ、その人らしく生活ができ、ADLが低下しないよう介護計画を作成している。	
			(外部評価) 職員担当制を敷き、担当職員が中心になって介護計画書を立案している。日頃利用者や家族から収集した意見や要望を取り入れ、職員がアイデアを出し合っている。一目で見て利用者の一日の様子が把握できるオリジナルの様式を用い、根拠あるモニタリングへつなげている。経歴に関係なく職員誰もが利用者の状況が把握できるよう、管理者は職員のスキルアップに意欲的に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子、気づいた事などを個別に記録しスタッフ間で情報を共有している。月一回のカンファレンスを行い介護計画の見直し、ケアの徹底を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 体調不良の際には、かかりつけ医に相談・受診を行っている。また、散歩や買い物・ドライブに行きたいといった入居者様の希望を尊重し、実現できるように職員体制を見直したり、ユニットを越えての協力をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 敬老会やお祭りなど地域の行事に参加し、楽しんで頂いている。地域に出向いて行ったりグループホームに来て頂いたり、保育園児や学生さんともふれあう機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間に一回かかりつけ医の往診がある。定期的に採血・検尿などをして いる。また、24時間電話対応可能で夜間の急変時にも指示を仰げる様な 体制が整っている。病院受診した際には、受診結果をご家族へ報告して いる。 (外部評価) 利用者の多くが協力医療機関をかかりつけ医にしているが、家族の協力 や介護タクシー等の利用により入居前の医療機関の受診もでき、利用者 や家族が満足する医療が受けられるよう支援している。協力医とは24 時間の医療連携が取れており、また、看護師の訪問も毎週あるなど、利 用者の健康管理は万全である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週に一回、看護師が勤務しており、状態の報告・相談を行える環境が 整っている。また、主治医との連携がスムーズにいく様なサポートを 行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関と連携し、スムーズに入退院できる様に支援している。また、 入院中も病院に出向き、状態把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所ですることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末支援について早い段階でご家族と話し合い、意向を伺っている。主 治医とも連携をとり、スタッフ同士で情報を共有し、適切な支援ができ る様に取り組んでいる。パンフレットを作成したり同意書を作成する等 し、入居者様・ご家族様はもちろんの事、ケアスタッフにも終末期のケ アに対する不安軽減ができる様、努めている。 (外部評価) 看取り介護ケア指針を整備し、最期を迎えるにあたっての考え方を定 め、事業所としてできることを家族等に説明している。利用者や家族が 希望する最期の迎え方等について詳細に記録にまとめており、それを基 に関係者と思いを共有し安心して看取り支援ができるよう努めている。	看取りケア終了時に、職員間で利用者や家族等の気持ち の変化等の振り返りの機会を持っており、介護を必 要とする人なら誰にでも参考になる内容であり評価で きるが、利用者の死を乗り越えられぬまま日々の業務 に就く職員もいるなど、職員の心のケアについては少 し不十分な感は否めない今後の取組みに期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。急変時には迅速な対応ができるように、AEDの使い方や心臓マッサージの行い方等、研修(8月24日)に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日勤帯・夜勤帯、両方のマニュアルを用意し、それに基づいて2ヶ月に1回避難訓練を行っている。非常時にも地域との連携・協力ができるように、普段から地域との交流を図っている。今年度は呼びかけにより、地域の方にも参加して頂けた。 (外部評価) 地元消防署の協力を得て、2か月毎に昼夜間想定での防災訓練を実施している。緊急災害時に、近隣住民に利用者の見守りなどの役割を担ってもらうなど、地域の協力体制は整っている。事業所の立地する地域は海岸に近く、伊方原子力発電所より30km圏内にあり地域住民の安全に対する意識も高いため、運営推進会議でもあらゆる想定での災害対策について話し合われるなど、協力体制は強固である。	災害訓練を頻回に実施するなど防災意識は強く、開設時から地道に参加の呼びかけを続けた結果として、地域住民との協力体制が築けている。夜間等職員の少ない時間帯の不安の軽減、また地震や津波等災害時の対応については、職員それぞれ曖昧な把握に留まっている面もあるため、今一度利用者が安全に避難できる方法を職員全員で確認し訓練に望んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様本人が、選択できるような声かけに努めている。入居者様は人生の先輩である事を忘れないように対応している。 (外部評価) 個人情報に関する書類等は正しく取り扱われ管理されている。ケアの中でも特に配慮が必要な入浴や排泄時の声かけには丁寧な対応を心がけており、利用者を尊重したケアに努めている。重度の利用者も多く、利用者の気持ちに寄り添い、自尊心を損ねないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者様が話しかけやすい雰囲気作りに努めている。表情・動作等の観察をし、日頃と違うちょっとした変化も見逃さない様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者様のできる範囲で、日中はレクリエーションを楽しんで頂いている。それぞれの意志を尊重し、個々のペースで過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時・入浴後等、定期的に身だしなみを整えて頂いている。また、毎日化粧を欠かさずされる方もおられ、個人に合わせた支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人に合った食事形態で食事を摂って頂いている。食事介助も本人に合ったペースで行っている。また、できる方には食器洗いや台拭き等、できる事を一緒に行うことで役割の構築ができています。	
			(外部評価) 献立は法人栄養士が作成したものを参考に、事業所で検討し作成している。地域住民や家族の差し入れのほか、地域商店から食材を配達してもらうなどの付き合いがあり、利用者は地域との交流を楽しみにしている。専門調理員を配置し、時には利用者にごしらせ等できる事を手伝ってもらいながら食事の準備をしている。利用者の誕生日は赤飯でお祝いしたり、麺や丼物等のリクエストに応じるなど、食事により興味を持ち楽しんでもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日欠かさず、食事・水分量の記録を残している。塩分の調整や砂糖をカロリーカットにする等、個々に合わせて対応している。入浴時、定期的に体重測定を行い、状態把握に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後必ず、口腔ケアを徹底している。定期的に入れ歯専用剤を使ったり、口腔用スポンジを使ったり、その人に合ったケアの仕方をする事で清潔が保てるように努めている。必要のある方は、個別で歯科医が往診してくださり、治療を行っている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 自らトイレに行こうとされる方は少ない為、動作が自立している方には、ご自分でトイレに行ってもらえる様に声かけを行っている。介助が必要な方でも立位のとれる人は、2人介助を行う等してトイレでの排泄が可能のように支援している。 (外部評価) トイレでの排泄を基本にし、利用者一人ひとりの排泄パターンに応じ、タイミング等を考慮し適切な支援に努めている。利用者の習慣や残存能力、機能回復に考慮した支援を実践し、できることを奪わないケアに取り組んでおり、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の予防として水分補給や体操・レクリエーションに参加して頂いている。排便困難な方は主治医やご家族とも相談し、坐薬を施行したり、内服薬を調整したりして排便コントロールを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 施設での入浴日は決まっているが、入居者のタイミングに合わせた声かけをし、気持ち良く入浴して頂いている。服を脱ぐ事を恥かしがられたり、入浴拒否をされる方は、ご家族ご協力のもと、外出時に自宅で入浴して頂く事もある。大風呂が苦手な方は小風呂も使用しており、入りやすい環境を完備している。 (外部評価) 2階には個別浴槽、1階には温泉気分が味わえる大きな浴室があり、利用者は好みに応じて入浴できる。入浴の苦手な利用者でも他の利用者が誘い合うなどし、お風呂に仲良く入り会話を楽しむこともある。広い脱衣場には浴室暖房機を備え室温差をカバーしたり、残存能力を活かした更衣ができるよう介助バーを配置するなど、配慮している。職員は声かけを工夫し、利用者の入浴したい気持ちを引き出し無理強いすることなく入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一日の流れの中で自然なリズムが生まれるよう、日中は体操やレクリエーションに参加して頂いたり、軽作業のお手伝いをお願いしたりしている。日中の活動を充実させることで、安眠が図れるようサポートしている。また適度に居室静養も行っている。季節に合わせてエアコンで温度調整をしたり、加湿器を利用する等し、乾燥防止にも努めている。中々眠れず、苦痛を感じておられる入居者様に対しては、必要に応じてご家族・主治医に相談し、眠剤を処方して頂くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬カレンダーを使用している。入居者様が内服される前にスタッフ同士が声かけをし「○○さん、朝のお薬です」という風に大きな声で確認をしている。内服拒否がある場合は時間をおき、再度声かけを行う。症状の変化等は往診時に主治医に相談し、指示を仰いでいる。薬の変更や主治医の指示があった場合はスタッフ間で徹底できるように記録に残している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の暮らしに楽しみやメリハリができるよう入居者様のペースに合わせて軽作業のお手伝いをして頂いている。入居者様も自分の役割ができると喜ばれている姿が確認できる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には海を見に散歩に外出したり、近くのスーパーで買い物をしたりして気分転換を図っている。ご家族との外出・外泊時にはお薬や着替え等準備をしている。	
			(外部評価) 利用者が気軽に外出できるよう日常的に近所への散歩で気分転換を図っている。会話の中で出かけたかった気持ちになったその一瞬を大切に、行きたい所へ行きたい時に出かけられるよう努めている。利用者の誕生日等の特別な記念日をチャンスと捉え、家族の協力を得て外出を楽しむこともある。地元の祭り等の行事では、事業所用にスペースを確保してくれる近所付き合いにも発展しており、外出先での楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金はご家族の方から預かり、金庫で大事に管理している。入居者の方が欲しい物がある時は希望に応じて対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の意思やご家族の都合に配慮しながら電話での支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 月ごとに季節感のある壁画をホールに展示、居室入り口にも小さいサイズの小物を展示している。入居者様と一緒に毎月カレンダーを作り部屋に飾っている。</p> <p>(外部評価) 事業所の共用空間は天井が高く、大きな窓からは自然光が取り入れられ、木材をふんだんに使用した落ち着いたある明るい設えとなっている。共用部各所にエアコンが設置され、湿度や温度など空調管理を適切に行っている。ダイニングとリビングが一目で見渡せる共用空間の好みの場所で、利用者はテレビなどを見ながらゆったりくつろいでいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 入居者様が不安を感じている時は、その都度声かけをし落ち着いて過ごせる様に支援している。共有空間の中で、お互いの生活空間が快適に過ごせる様に、仲立ちをスタッフが行っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室にはご本人の慣れ親しんだものをご家族の方に持ってきて頂き、居心地良く過ごせるように支援している。</p> <p>(外部評価) ベッドやエアコン、収納棚が備え付けられ、利用者が快適に過ごせるよう丁寧に掃除も行き届いている。仏壇や使い慣れた家具など好みの物を持ち込むことで、利用者が落ち着いた気分で、思い思いに居心地よく生活できるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ご自分の力で廊下が歩けるよう手すりを設置する事で、トイレに自分で歩いて行けるようになった方がおられる。また、手すりを活用する事で、立位訓練ができるようになった方もおられる。</p>	